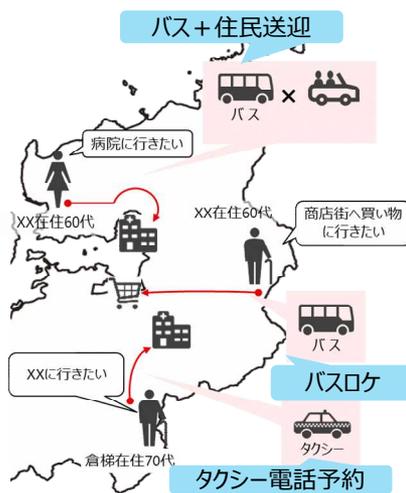


共生の仕組みによるMaaS実証実験

ドライバー不足等の公共交通維持に係る課題解消に向け、住民同士の送迎という新しい移動手段とバスやタクシーなど既存の公共交通を組み合わせたMaaSを導入する。住民同士の“お互い様（助け合い）”を促す「共生」の仕組みを作り上げるとともに、地域住民の移動手段の確保を図る。

協議会の構成員	【幹事】舞鶴市、日本交通(株)、オムロンソーシアルソリューションズ(株)		取組イメージ	
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少や高齢化の進行による、公共交通利用者の減少 ● 路線バスやタクシー等のドライバーの減少による、公共交通のサービスの悪化や利便性の低下の懸念 		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">MaaSを通じて提供しているサービスのイメージ</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">住民送迎における「mee」の仕組み</p> <p style="text-align: center;">meeをゲットする仕組み</p> <p style="text-align: center;">住民同士で“会う”とお互いが増える</p>  <p style="text-align: center;">住民送迎後に利用者がドライバーに渡す</p>  <p style="text-align: center;">meeを使う仕組み</p> <p style="text-align: center;">「mee」を可視化することによる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドライバーへの表彰 ・ゲーミフィケーション </div> </div>	
取組の概要	期間	2020年7月1日～9月30日	検証結果	
	エリア	京都府舞鶴市	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者51名、ドライバー40名が参加。しかし、移動困難者の巻き込み・周知がより一層必要。 ● 3ヶ月の最大マッチング率は69%。マッチング率向上には多々課題あり。曜日別・時間帯別のマッチング率も詳細に検証することが必要 ● 全体として外出頻度が増加。バイク移動の利用者は動く範囲が拡大。新たに動く目的を作ることが外出頻度増加に寄与 ● タクシーの利用頻度は減少（利用者51名のうち5人がタクシーのヘビーユーザー）。移動の全体パイを増やす取り組みが必要 	
	MaaSシステム	MaaSアプリ「meemo」を独自に構築		
	交通サービス	以下サービスを「meemo」アプリで提供 <ul style="list-style-type: none"> ● 住民同士で送迎し合う「住民同士の送迎」（利用者は自身とのつながりや好みに応じてドライバーを選択可能） ● 電話によるタクシー配車機能の提供 ● バスロケによるバスの位置・遅延情報の提供 		
交通以外のサービス	アプリ上に独自の共生ポイント「mee」を導入し、以下のサービスを提供 <ul style="list-style-type: none"> ● ドライバーの貢献意欲を高めるため、利用者からドライバーへ感謝の気持ちをポイント「mee」で表す仕組みの導入 ● 住民同士の交流を促進するため、アプリのユーザーである住民同士でスマホを近づけると、お互いに「mee」がチャージされる仕組みを導入 		今後の方向性	
検証内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 会員獲得数や会員アクティブ数の検証 ● 地域住民の移動に対する満足度や移動総量・外出頻度増減の検証 ● 住民同士の送迎の利用者数やマッチング成立率の検証 ● 路線バスやタクシー等の公共交通と住民同士の送迎サービスが共存できたかに関する検証 		2021年10月～12月に高野地区にて実証実験を実施し、以下を検証予定。 <ul style="list-style-type: none"> ● マッチング率の向上（69%） ● meemoのユニークな信用担保、インセンティブ（mee）の効果検証 ● 持続可能な体制の検証 ● 事業リスク検証 	